

EASTER VILLAGE

イースタービレッジだより・第 32 号



ピースキャンプ参加者とリーダー総勢 70 名で日本の被災者のために祈る。

過ぎ越しを祝う

アフリカや中東の情勢が悪化している中、東日本を襲った地震と津波。世界中でも大きく報道されている。子どもたちもテレビで見た地震と津波の恐ろしさ、そして甚大な被害を前に愕然としている。多くの恩人のいる日本が悲惨な状態にさらされている。子どもたちや職員たちはすぐに口ザリオの祈りを自主的にし始めた。何かできないか。職員たちは自主的にバザーを行い、被災地に届けたいと自分たちの汗と努力を日本に送っている。

あつという間に家や家族、友人を失ってしまった多くの方々、また、福島原発事故で風評被害や食物の汚染で苦しんでいる方々にお見舞い申し上げます。

3月31日から4月4日まで、今年もイースタービレッジを会場に子どもたちのピースキャンプが開催された。ミンダナオの少数民族やモスレム、クリスチャンの子どもたちが五十数名集まり、平和構築の中での子どもたちの権利を学ぶのが目的だ。歌や踊り、話し合いや劇創作など、ドイツの団体が支援しているプログラムだ。開会式の折、全員で東日本大震災の被害者のためにろうそくを灯し、祈りをささげた。いろいろな形でフィリピンからも被災者に「寄り添う」ことができるように願っている。

このような状態の中で今年はイースター（復活祭）を祝おうとしている。悲惨のどん底にいる人たちにとって復活などといっても慰めのことばにならないかもしれない。しかし、キリストの復活を信じる者たちにとって、「過ぎ越し」の神秘を祝うのは、まさにどん底体験者にふさわしいものだ。絶望から希望へ、闇から光へ、死から命へ過ぎ越したキリストの勝利を祝うイースター。私たちも被災者の心に寄り添いつつ、特別な思いで主の過ぎ越しを深く黙想し、祝おうと思う。考えてみればビレッジの子どもたちも親から見捨てられたり、離れ離れに暮らさざるを得ないどん底からあの光輝く笑顔を見せている。子どもたちの中に復活のキリストが生き続けますように。

祐川郁生神父

卒園・卒業の季節



2010年から2011年度、3月はそれぞれ卒園、卒業の季節です。チャイルドケアセンターの子どもたちも元気に旅立っていきました。

6月に新たにオープンする新ビルディングにて卒園、進級のお祝いです。綺麗に飾りつけ、一年間学んだことを保護者たちに披露。特に、シスター勝が教えた楽器演奏は評判でした。新たにスクールバスも用意して、新学期は大きな建物と庭で大勢の子どもたちの保育



新しい建物はE Vの施設と同じようなデザインです。中央にはGod is Love(神は愛)というロゴを入れる予定

が始まります。児童養護施設と併設して、こちらではいくらかの収入が見込まれ、施設自立の一步となることも目指しています。



フィリピンの学校では楽器の写真をみせるだけの授業が一般的。送って下さった楽器で子どもたちは直に触れることができます。

卒業を迎えた子どもたち

イースタービレッジで小学校を卒業したのはベルナとサミー。朝七時から始まった卒業式は十一時半まで続きました。卒業生が480名のマンモス校ですから仕方がないのですが、出店なども外にあり、途中で抜け出しておやつを食べながらのフィリピン流です。

サミーはなんだかんだで8年かかって小学校卒業を迎えました。ベルナは2年生の3学期からフィリピンの小学校に転校。もうすつ



かりフィリピン流に慣れ、真っ白にお化粧して卒業式を迎えました。



やはり、人生の節目である卒業のお祝いは感動的です。今までの数年間の思い出が走馬灯のように頭をよぎりました。祐川神父も父親役で参加。

高校を卒業したのはアナリン。母親役？のシスター勝が保護者として入場。こちらも超マンモス校で、卒業生が800名以上。朝七時に始まり延々と6時間。人ごみと暑さで目まいがしながらも、無事に卒業証書を手にしました。

進路を悩んでいましたが、日本でスポンサーが見つかり、大学進学となります。ソーシャルワーカーの道を目指すことになりました。4年間少しキダパワンから離れますが、休みにはボランティアしてくれそうです。



ミンダナオの少数民族であるマノボ族の二人兄弟。両親を亡くして二人で助け合う仲良い兄弟

ハニーちゃんは火事の被害を受けた家族から一時的に預かりました。1歳9ヶ月です。

ダミアンちゃんは生後8日目に来ました。2400グラムでしたが、ミルクをたくさん飲み、かわい

新しい子どもたち



クラスメートたちと記念写真。卒業式の後、みんなでジョリビーで腹ごしらえ。



D S W Dから最初他の施設に回されましたが、そこにいられず、E Vにくる事に。来た当初は体中傷だらけ



ハニーちゃん。短期間で（赤ちゃん部屋）の子どもたちしたがE Vの仲間入り。



ダミアンちゃんは4ヶ月経って3.7キロにまで成長しました。同じエンジェルルーム（赤ちゃん部屋）の子どもたちも弟ができた喜んでます。

い赤ちゃんに成長しています。ロネル君、12歳ですが栄養失調で入所時は17キロ。すごい食欲で盛り返しています。

ご寄付頂いた方々、

心より御礼申し上げます



工藤麗子 永井和夫 松苗博子

上野祐子 マリア幼稚園 古賀晃子

水口透 小野幌教会有志

辻崎恵和子・祥子

カトリック北26条教会

扇谷ウタ子 札幌聖心女子学院

黎明幼稚園 キアラ会 丹羽裕美子

函館白百合学園幼稚園 宮武玲子

鳴海聖園天使園・職員一同

カトリック円山教会 E Vを支える会

川成靖夫 カトリック小野幌教会

辻知子 佐藤道子 久川洋子 水曜会

近藤修二 成島蓉子 松村輝子

川島淳 美幌町役場野球部

天使の聖母トラピスティア修道院

カトリック宮前町教会・高橋勝美

広島天使幼稚園園児及び保護者一同

勝谷太治 本田修二・メレス

山名田静 エミール・デユマス

ルカ・ジャパン

カトリック川口教会

横田三子 石原靖志

祐川真一・節子 小樽晴美



2011年1月4日～3月16日

ＥＶの昨日今日

ピアノ・リサイタル

3月20日、普段から毎週一度のピアノレッスンを受けている子どもたちの発表会が開かれ、自慢の演奏を披露しました。



綺麗に着飾ってお化粧までしてリサイタルに望みます。フィリピンでは子どもがお化粧するのに抵抗感はありません。女の子であれば赤ちゃんの時からピアスをさせたりします。いつの日か、ＥＶからピアニストがでることを願っています。(写真右はビビ)

ピースキャンパ

これは毎年、ドイツのNGOの支援を受け、コタバト州ミドサヤフの南キリスト教大学が主催して行われています。

子どもたちの創作劇の発表を見ていると、子どもが多くお金がなくて学校にやれず、親戚の家に預かってもらい、虐待を受けるというパターンが多いのに気づく。貧困が平和構築の大きな妨げになっている現実を子どもたちの迫真に迫った演技から感じた。参加者はみんな実に素晴らしいタレントを持っている。



最後の夜は平和のためのプレゼンテーション

五日間寝食を共にし、友情を育んだ仲間たちとの別れはつらく、涙の別れとなりました。

支援品に感謝

北海道を始め全国各地から支援品をいただいています。すべては掲載できませんが、子どもたちに必要なものを送ってくださる方々に御礼申し上げます。



これは北海道美幌町の有志の方々からいただいたもの。子どもたちが普段使うものだと非常に助かります。定期的に送ってくださる方もおり、運営費の負担を抑えることができます。感謝。

訪問者のご紹介

ここ数年毎年訪問して下さるルカ・ジャパン。聖路加病院の救急部医師、石松伸一先生を中心にした海外医療視察などを行っているグループです。今回は初めて石松先生が来られました。

神田美佳さんは医療ソーシャルワーカーで二度目の訪問。看護師の上野まき子さんは初めて。それに常連の放射線技師の森谷朋子さん、奄美で働く内科医師の堀田敏弘先生です。来年はルカジャパンが得意とする応急処置の仕方などを職員に教えてもらいます。



今回はハンドベルの演奏をしてくださいました。素晴らしい音色に子どもたちはうっとり。



写真は右から石松先生、森谷さん、上野さん。石松先生は地下鉄サリン事件の時、東京築地の聖路加病院の救急医として大活躍されました。人望厚い先生に惹かれて多くの人たちがルカジャパンのメンバーになっています。

一年近くイースタービレッジを中心にボランティアをしてくれたソーシャルワーカーの山名田静さんの関係で訪問して下さった方々をご紹介します。

まずは、山名田さんが勤めていた北海道美幌町の仲間で砂原泉さんと成田好さんです。忙しい中、短い休みを取って来て下さいました。

石原靖志さんはマニラで山名田さんと一緒に英語の勉強をされていました。イギリスに留学する予定だそうです。



写真は右から神田さん、堀田先生。神田さんはホームレスの人たちなど多くの困っている人たちのために奔走する凄腕ワーカーです。堀田先生は奄美のような離島で活躍中。

一年近くイースタービレッジを中心にボランティアをしてくれたソーシャルワーカーの山名田静さんの関係で訪問して下さった方々をご紹介します。

まずは、山名田さんが勤めていた北海道美幌町の仲間で砂原泉さんと成田好さんです。忙しい中、短い休みを取って来て下さいました。

石原靖志さんはマニラで山名田さんと一緒に英語の勉強をされていました。イギリスに留学する予定だそうです。



右から成田好さん、砂原泉さん、石原靖志さん。女性二人はスポーツ大好き。成田さんは実はラグーウーマン。石原さんは世界中を回ってきた旅のプロです。



元気はつらつの17歳

石井志歩さんは高校生でフィリピンに短期留学中、帰国を目の前に宮崎カリタスのシスターからイースタービレッジの話聞き、2週間ボランティアとして滞在してくれました。滞在中は、子どもたちとよく遊んでくれました。一緒に血洗いや庭の掃除なども手伝ってくれました。また来てね。



笑顔輝く19歳。将来は幼稚園の先生？軽井沢から東京赤羽まで通っています。



ユーミンや加藤登紀子さんのギターリストもしていたプロから教えてもらえる子どもたちは幸せです

本田修二さん、メレスさんはダバオ在住のご夫婦で、懇意にさせていただいています。本田修二さんはシンガーソングライターで、現在はGINTE2というグループ名で活躍中。(ホームページ: davashu.way-nifty.com/blog/) イースタービレッジにもいろいろとご協力いただいております。特に、子どもたちにボランティアで音楽を教えてくださいます。この4月5月の夏休みもイースタービレッジで開かれる音楽教室のためにご尽力いただいております。先日ホームステイしていたビビを連れて訪ねてくださいました。



おしゃまなジェニス。二人のお兄さんにいつも守られています。笑顔のかわいい子どもですが、結構怒るとこわいとか。

15日はジェニス、6歳になり、今度ピカピカの小学1年生です。



ジョビリンはしっかりもののお姉さん。小さな子どもの面倒を本当によく見てくれます。

1月から3月までの誕生日を迎えた子供たちを紹介します。1月5日はジョビリン、15歳のお姉さん。今度6年生になります。

誕生日おめでとう

3月生まれはCJ(クリスチャン・ジェイク)です。18日で3



海苔と梅干が大好きなエリサ。甘えん坊ですが、この子も怒るとこわいです。



お馴染みディンブル、好奇心の旺盛さはEVーでしょう。

2月は12日で10歳になったディンブルと、26日でこちらも10歳になったエリサです。今度6月の新学期からはそれぞれ5年生になります。子どもたちの成長は本当に早いですね。



主人と同じ4月生まれのダヤン。もうすぐ2歳になるところで主人の命令により、無理やり結婚。子どもを産まされました。四匹も産んだのに、一匹は夫の主人に、一匹はなんと売り飛ばされちゃいました。

そして、最後にダヤンが母さんになりました。2月に主人いない夜、初産にもかかわらず、一人(一匹?)で四匹もの子どもを産みました。しばらくは親子で住んだ後、2匹は他の家にもらわれ、2匹のみ残ることに。



最近はお姉ちゃんのユミによく面倒をみてもらっています。今年の6月からEVのチャイルドケアセンターに通います。

歳になりました。まだ、言葉がはっきりしませんが、ひょうきんな性格で、エンジェル・ルームの主のような顔をしています。



イースタービレッジ雑感 (26)



今回は約一年近くイースタービレッジを中心にボランティアをしてくれた北海道紋別市出身のソーシャルワーカーの山名田静さんに書いていただきました。



貧しくても眩しい笑顔。人懐っこい人柄。家族との深い絆。

フィリピンが持つシンプルな魅力に惹かれ、辛い背景があることを感じさせないくらい爽やかな笑顔をした子どもたちに囲まれて過ごしたこの1年間は、私にとってかけがえのない時間となりました。

本来両親から注がれるはずの無条件で無限の愛。それを与えられていない子が多くいますが、この子たちはとても上手に人を愛することができます。

どんな私をも受け止めてくれる純心で無垢な心と、差し伸ばしてくれる小さなおてて。温もりと愛を注ぐことの尊さ、今まで知らなかった幾つもの感情に気付かされ、今まで考えたことの無かったことをたくさん考え、本当に多くのことをイースタービレッジで学びました。



日本の福祉に携わってきた私は、途上国で自分の福祉観を磨くために渡比しました。スラム、スモーキーマウンテン、先住民の貧困集落、一般家庭さえ貧しい、数々の厳しい現場を目の当たりにし、その上で出会った、私の本当の子どもではないことが残念でならないほど愛おしい子どもたちと、意欲的に働くスタッフたちのおかげで、福祉の本質と意義を見た思いがしています。



私が常夏の島国で見つけたこの気持ちをいつまでも忘れずに、そして子どもたちとのかけがえのない思い出をいつも心の片隅において、これからも福祉の現場に在り続けたいです。

山名田 静





チ コ (Chico)

チコはフィリピンでは一般的に食される果物です。だいたい年中手に入る果物で、大きいものと小さなものがあります。現地の人の表現では、「甘い砂のようだ」そうです。それを言うならザラメのような砂糖と言った方が良いでしょう・・・いずれにせよ、黒砂糖のような、ココアのような味でしょうか。ある本によると「程よく熟れたチコは、最高品質の洋ナシにメープルシロップで味付けられたような味」だそうです。「よく熟れた」というのが正しいです。ご賞味あれ。

< 支援のお願い >

フィリピン南部にあるイースタービレッジ・ミンダナオは善意ある日本の皆様に支えられています。貧困と紛争の犠牲者となっている声なき子どもたちを私たちが支え、そして彼ら自身が自立し、貧困と紛争の原因を取り除く平和の使者となるようにできるだけ援助をしたいと考えています。与える以上に受けるものの方が本当はもっと多いのです。援助をくださる方は下記事務局にご連絡くださいませ。

「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」(支援者募集)

代 表 勝谷 太治 事務局 鈴木 みち子 松川 厚明
060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10 カトリック札幌司教館内

「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」事務局

011-241-2785 Fax 011-221-3668

支援金 : 年会費一口 ¥5,000 (一口以上) 一般寄付

郵便振替口座番号: 02760-3-39473

口座名称: イースタービレッジ・ミンダナオを支える会

現地事務所: EASTER VILLAGE OFFICE

Riverpark Subd., Kidapawan City 9400 Cotabato Philippines

Tel: 63-64-278-4742 Fax: 278-3116 Email: info@eastervillage.com

Website: <http://eastervillage.com>

* 会員、並びに奨学生を支えて下さっているスポンサーの方々、一般のご寄付を下さった方々には継続してこのたよりを送らせていただきます。(年四回)

2011年3月

「イースタービレッジだより第32号」

発行責任者: 祐川郁生

